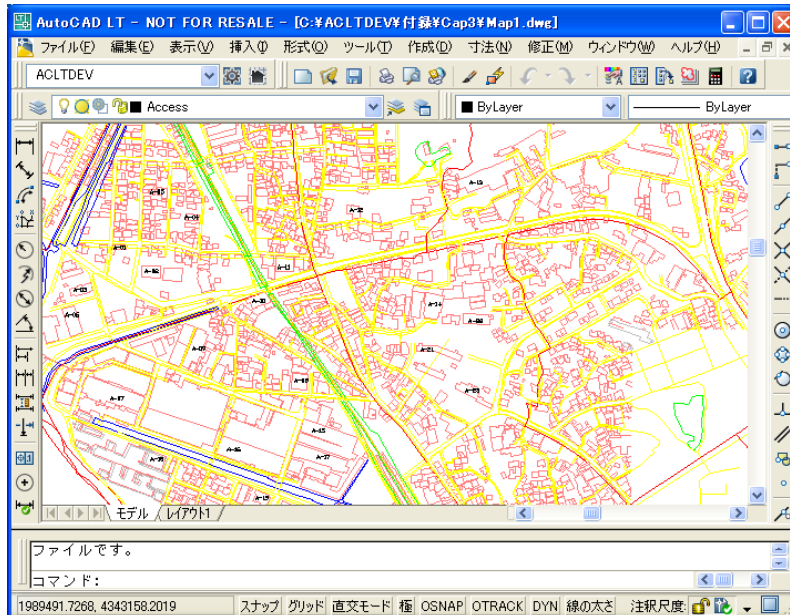


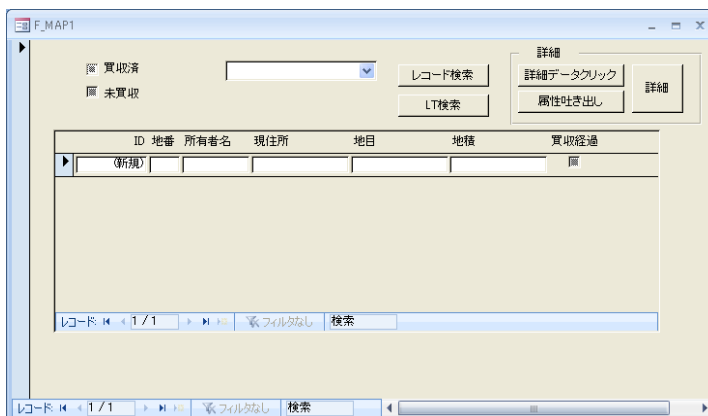
Access とリンクする

① F_Map1.mdb

Step1-AutoCAD LT を起動し、Map1.dwg を開きます。



Step2-Access から、F_Map1.mdb を開きます。



Step3-Access の「F_Map1」のフォームから[買収済][山林]を選び、[レコード検索]ボタンを押します。

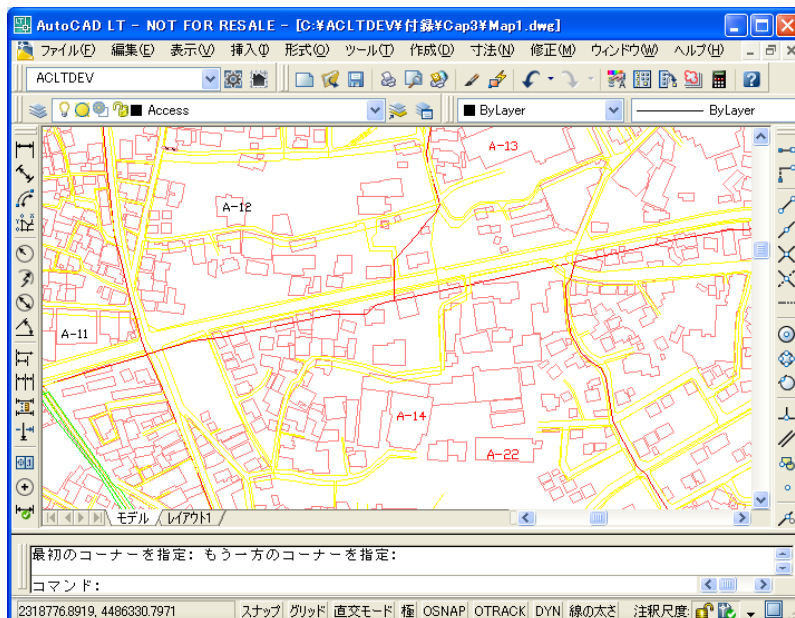
最初は、[買収済]と[未買収]が無効になっているので、どちらかにチェックを入れておいて下さい。

下図のように、該当するレコードが表示されます。



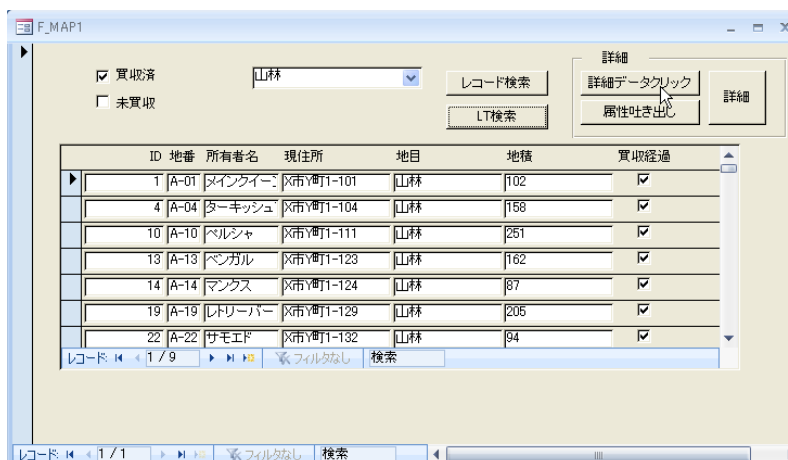
Step4-[LT 検索]ボタンを押します。AutoCAD LT の画面に切り替わり、該当する地番（この例では買収済の山林）の色が赤に変わっています。

(データが多いので、変化するのに時間がかかります。うまくいかない時は、再度[LT 検索]ボタンを押して下さい。)



データが多いときは、動きがおそくなります。
うまくいかない時は、タイミングがずれていますので、何度かボタンを押して下さい。

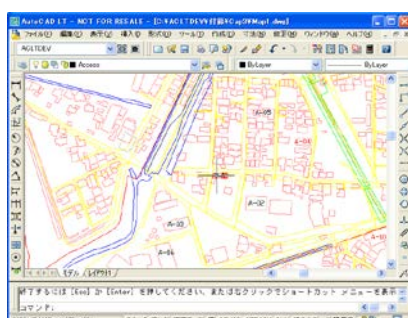
Step5-Access の[F_Map1]のフォームに切り替えて、[詳細データクリック]ボタンを押します。



Step6-AutoCAD LT の画面に切り替えて、赤色に変わっている番地の 1 つを選びます。

下図では、「A-14」を選んでいきます。

(コマンドラインに、「基点を指示」のメッセージが出ます。)

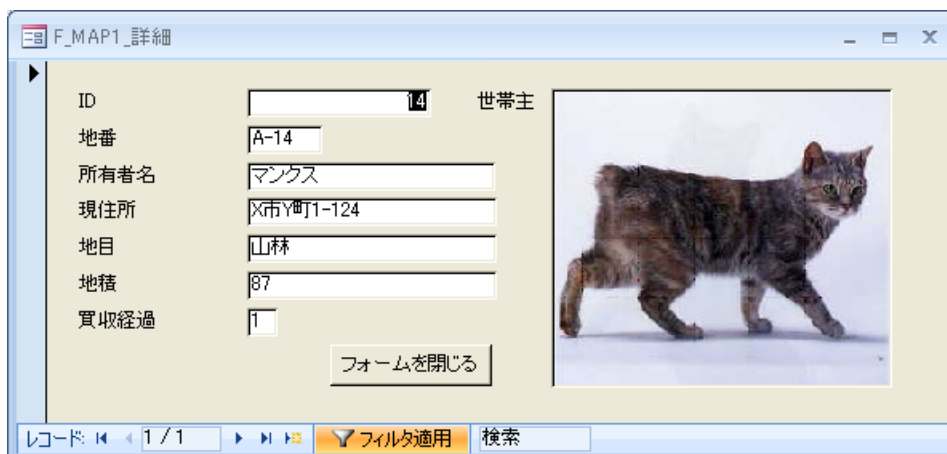


基点を指示するのは、そこにあるブロック図形の座標を取得しているのです。
その座標をもとに、それが持つ属性を表示しています。

Step7-Access の[F_Map1]のフォームに切り替え、[属性吐き出し]ボタンを押します。
この時に、Access のキーと AutoCAD LT の属性値がリンクされます。



Step8-続けて、Access の[F_Map1]フォームの[詳細]ボタンを押します。
下図のように、指示した地番の詳細データが表示されます。



応用例（住民データベースとして）

住民台帳と住宅の CAD 図面とをリンクさせて、住民データベースが構築できます。自治体は、このプログラムを利用して、住民管理台帳システムとして十分に利用できます。

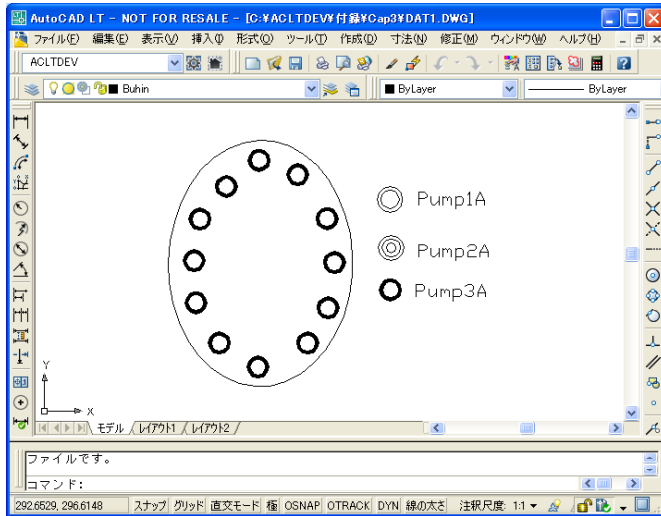
応用例（営業支援データベースとして）

車のディーラーは、AutoCAD LT で作成した自分の営業エリアの住宅地図を持っています。そして、その図面の中の1つ1つの住宅に車の所有者の情報が与えられています。

ディーラーは検索することができるでしょう。半年後に車検の切れる家はどこだろうか。他社と競合するエリアはどこだろうか。

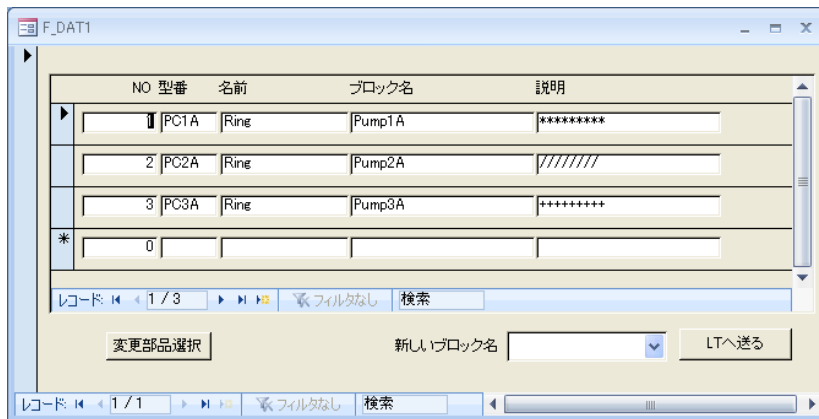
② F_DAT1.mdb

Step1-AutoCAD LT を起動し、DAT1.dwg を開きます。

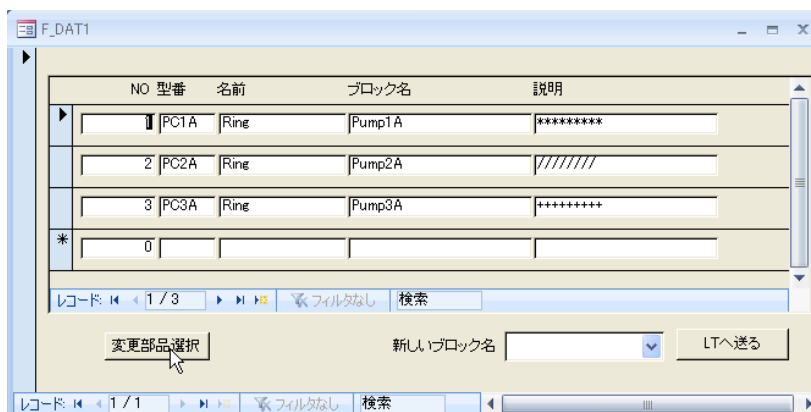


設備図面や機械図面には、多くの種類の部品（パーツ）が配置されています。サーバにある他のパーツと入れ替える時、AutoCAD LT には一括で入れ替える機能はありません。このプログラムは、ボタン1つで、すべての同じ部品を入れ替えることができます。

Step2-Access から、F_DAT1.mdb を開きます。

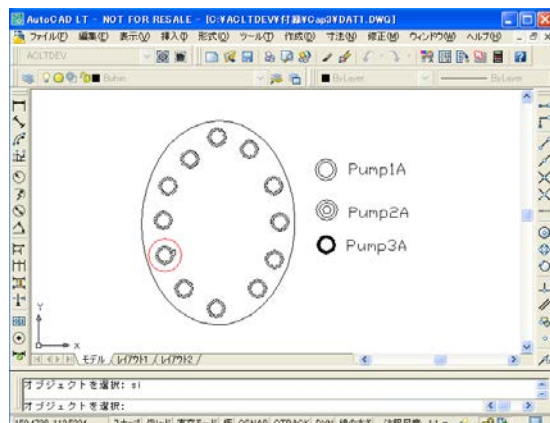


Step3-Access の[F_DAT1]フォームから、[変更部品選択]のボタンを押します。

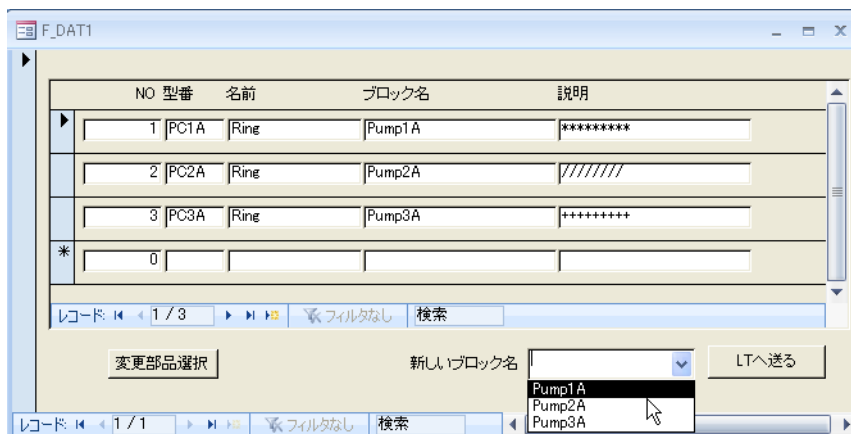


[変更部品選択]のボタンを押すことによって、Access のデータベースと AutoCAD LT のデータベース（属性値）を再構築しているのです。

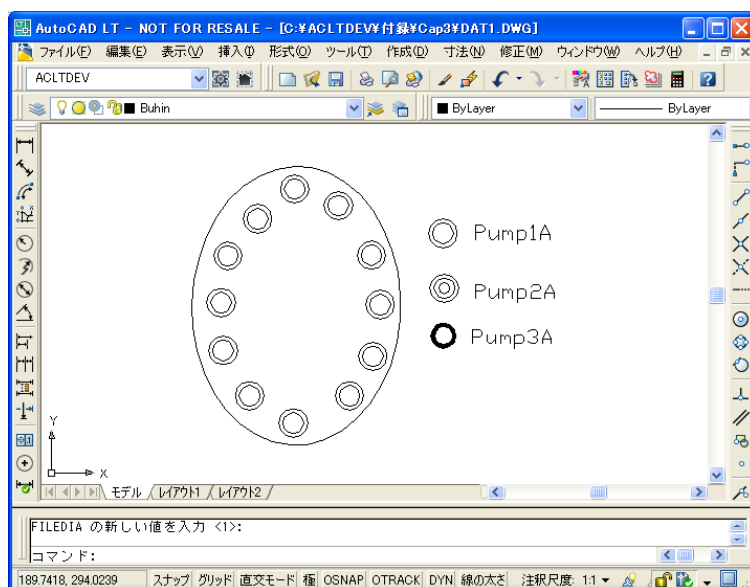
Step4—AutoCAD LT の画面に切り替わり、変更したい図形の選択状態になるので、丸印の図形を選択します。この図形のブロック名は「Pump3A」です。



Step5—Access のフォームに戻り、[新しいブロック名]の中から、「Pump1A」を選び、[LTへ送る]ボタンを押します。



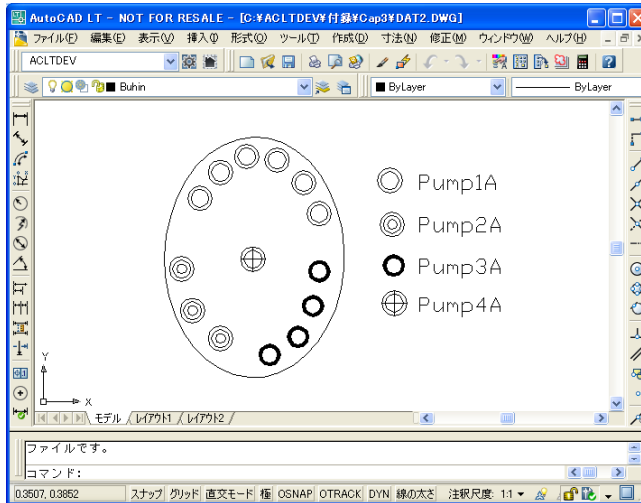
Step6—AutoCAD LT の画面に切り替わり、Pump3A のブロックが、すべて Pump1A のブロックに入れ替わりました。



このプログラムは、相互通信です。Access のデータベースの変更は、AutoCAD LT の属性値を自動で変更出来ますし、AutoCAD LT で変更した属性値も自動で Access のデータベースを再構築できるからです。

③ F_DAT2.md

Step1-AutoCAD LT を起動し、DAT2.dwg を開きます。



図面に配置されているブロックの種類と数を表示する機能は、AutoCAD LTにはありません。しかし、設計の管理者には一番知りたいことでしょう。このプログラムは、ボタン1つで開かれている図面に配置されているブロック（パーツ）の種類と数とを Access のフォームに表示します。

Step2-F_DAT2.mdb を開きます。



Step3-Access の[F_DAT2]フォームの、[LT 側属性吐き出し]のボタンを押して、続けて[更新]ボタンを押します。

この図面ファイルに存在しているブロック名とその個数と金額が表示されます。

AutoCAD LT 側で、ブロックの数を変更した場合、Access のフォームの[更新]ボタンを押すと、最新のデータベースが反映されます。



このプログラムを使うことによって、管理者はこの図面が必要としている部品の数とそれに付随する重量や積算金額を簡単に、リアルタイムに知ることができます。